



MORI MEMORIAL
FOUNDATION

一般財団法人 森記念財団主催 第11回 都市ビジョン講演会

「文化の力、都市の未来」出版記念 講演会

東京の未来を見据えたとき、都市の中で起こるクリエイティブな活動は、欠くことができないものになっています。クリエイティブな活動から生まれる、その都市ならではの文化により、都市の個性は確立されます。当財団ではそれらの活動を産業として捉え、都市の中でいかにして文化・クリエイティブ産業が育っているかを調査研究しております。文化産業において先進的な都市の事例は、東京のこれからの方向性を探る上で重要な示唆を与えてくれると考え、2014年にロンドンで行った現地調査にはじまり、ニューヨーク(2016～2018)、東京(2020～2021)と、これまで調査研究を進め、シリーズ化してまいりました。

本調査研究では、①都市の中で文化はなぜ必要なのか、②産業として育つためには、資金、教育、社会制度などアートのエコシステムがなぜ必要なのか、③東京ひいては日本の中では、都市の文化の核となるものは果たしてうまく育っているのか、などに注目し実施してまいりました。

このたび、これまでの調査研究内容を一冊の本にまとめ、鹿島出版会より出版することになりましたので、それを記念し、講演会を開催いたします。

開催日	2023年1月23日[月]
開催時間	14時00分～16時45分(日本時間)
開催形式	ZOOMウェビナーによるオンラインライブ配信
募集定員	300名(先着順・事前申込制)
参加費	無料

お申込

下記URLまたは右のQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/xu2nFgTKphSLxbCRA>

※定員になり次第締め切りとさせていただきますので、お早めにお申込ください。



スピーカー

杉本 博司 (すぎもと・ひろし)

現代美術作家



1948年東京生まれ。活動分野は写真、建築、造園、彫刻、執筆、古美術蒐集、舞台芸術、書、作陶、料理と多岐にわたり、世界のアートシーンにおいて地位を確立。時間の性質、人間の知覚、意識の起源といったテーマを探究している。代表作に『海景』、『劇場』、『建築』シリーズなど。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、2017年には「小田原文化財団 江戸浦測候所」をオープン。主な著書に『苔のむすまで』、『現像像』、『アートの起源』ほか。2010年秋の紫綬褒章受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。2017年文化功労者。

小林 重敬 (こばやし・しげのり)

一般財団法人 森記念財団 理事長



東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。横浜国立大学大学院教授、日本女子大学講師、参議院国土交通委員会客員調査員、日本学術会議連携会員等を経て現職。NPO法人大丸有エリアマネジメント協会会長、全国エリアマネジメントネットワーク会長を兼任。国土交通省等多くの審議会にて政策づくりに関与し、横浜のMM21の開発、横浜駅周辺地区大改造計画、大阪駅うめきた開発などに関わり、大手町丸の内有楽町地区、東京竹芝地区、東京神田淡路町地区などのエリアマネジメント活動にも関与。

南條 史生 (なんじょう・ふみお)

森美術館 特別顧問



1972年慶應義塾大学経済学部、1977年文学部哲学科美術美術史学専攻卒業。国際交流基金などを経て、2002年より森美術館立ち上げに参画。2006年11月から2019年まで館長、2020年より特別顧問。1990年代末よりヴェニスビエンナーレ日本館を皮切りに、台北ビエンナーレ、横浜トリエンナーレ、シンガポールビエンナーレ、茨城県北芸術祭、ホノルルビエンナーレ、北九州未来創造芸術祭 ART for SDGsなどの国際展で総合ディレクターを歴任。著書として『アートを生きる』(角川書店、2012年)など。

稲蔭 正彦 (いなかげ・まさひこ)

慶應義塾大学メディアデザイン研究科 委員長 兼 教授



コンテンツ、サービス、地域開発の分野で、プロデューサー、クリエイティブ・ディレクター、戦略コンサルタントとして活動。近未来社会を描くメソッド「ドリームドリブンデザイン」を提唱し、アート、デザイン、エンタテインメントにあふれるワクワクする近未来社会に向けたイノベーション創出をめざしている。国内外の企業や研究所の経営や運営にも参画。

中島 直人 (なかじま・なおと)

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授



1976年東京生まれ。東京大学工学部都市工学科卒、同大学院修士課程修了。博士(工学)。東京大学大学院助手、助教、慶應義塾大学専任講師、准教授を経て、2015年4月より現職。専門は都市計画。主な著作に『都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート』(東京大学出版会、2018年、日本都市計画学会論文賞受賞/日本建築学会著作賞受賞)、『都市美運動 シヴィックアートの都市計画史』(東京大学出版会、2009年、東京市政調査会藤田賞受賞)、『コンパクトシティのアーバンイズム コンパクトなまちづくり、富山の経験』(共編著、東京大学出版会、2020年)、『アーバンスト 魅力ある都市の創生者たち』(編著、ちくま新書、2021年)『都市計画家石川栄隆 都市探求の軌跡』(共著、鹿島出版会、2009年、日本都市計画学会石川奨励賞受賞)。

林 保太 (はやし・やすた)

文化庁 文化戦略官・芸術文化支援室長



1967年生まれ。1994年から文化庁勤務。2003年、河合隼雄文化庁長官(当時)が提唱した「関西元気文化圏構想」立ち上げを担当。2009年から11年にはメディア芸術(特にアニメーション)振興施策の企画立案を担当。2013年8月から、現代アート振興政策の企画立案に向けた調査研究に継続的に取り組み、2018年から日本におけるアート・エコシステムの形成を目指す「文化庁アートプラットフォーム事業」の推進を担当。2021年7月から現職。

山中 珠美 (やまなか・たまみ)

一般財団法人 森記念財団 主任研究員



森ビル株式会社、愛宕グリーンヒルズ、ヴィーナスフォート、六本木ヒルズ森アーツセンターのプロジェクトで企画開発を担当。2003年より現職。専門分野は文化と産業、体験型観光、都市計画。東京の観光体験に着目した「東京のブランド力」(2012年)や、都市が持つ文化創造力やその支援方法に着目し、第一線で活躍する文化の担い手らへのインタビューを実施した調査研究「ロンドン式 文化・クリエイティブ産業の育て方」(2016年)、「ニューヨーク版 文化・クリエイティブ産業の育て方」(2018年・2019年)を担当執筆。

プログラム

14:00	開会挨拶	小林 重敬 (一般財団法人 森記念財団 理事長)
14:05 - 14:20	書籍概要説明	「文化の力、都市の未来」 山中 珠美 (一般財団法人 森記念財団 主任研究員)
14:20 - 15:05	特別講演	現代美術作家 杉本博司氏
15:05 - 15:15	休憩	
15:15 - 15:30	基調講演	文化庁 文化戦略官・芸術文化支援室長 林保太氏
15:30 - 16:40	トークセッション	「都市と文化と未来」 パネリスト： 南條 史生氏 (森美術館 特別顧問) 稲蔭 正彦氏 (慶應大学メディアデザイン研究科 委員長 兼 教授) 中島 直人氏 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授) 林保太氏 (文化庁 文化戦略官・芸術文化支援室長) モデレーター： 小林 重敬氏 (横浜国立大学 名誉教授) 山中 珠美 (森記念財団 主任研究員)
16:40 - 16:45	質疑応答	
16:45	閉会	